資料３

昨年度委員会の概要

	開催日	議　　題
第１回	H21/11/30	(1) 委員会設置趣旨について (2) ストックマネジメントに関する最近の動向について (3) 検討範囲とストックマネジメントの実施フローについて (4) 主な検討課題について
第２回	H22/01/25	(1) 前回議事録の確認 (2) ストックマネジメントの全体像について (3) 管路施設管理計画の策定について
第３回	H22/02/25	(1) 前回議事録の確認 (2) 処理場等施設管理計画の策定について (3) 投資計画の検討について (4) 点検・調査計画の検討について

検討範囲とストックマネジメントの実施フロー

1. 検討範囲

○ ストックマネジメントについては「基本的な考え方」が示されているものの、ストックマネジメントの導入を進めるためには、より実践的な手引きの作成が必要

○ 本検討委員会では、既存施設の改築・維持管理に重点を置いた施設管理計画の策定を中心に、以下について検討する。

①要素技術の検討・整理

②目標設定の考え方

③計画策定のための実務的な作業手順の整理

④施設管理情報の整備状況に応じたストックマネジメント手法のレベルアップ（精度向上）の考え方

2. ストックマネジメントの実施フロー

○ ストックマネジメントの流れは、「基本的な考え方」に示されており、この流れを基本とし、海外の事例等を参考としつつ、ストックマネジメントの詳細な実施フロー案を設定する（図 2-2 参照）。

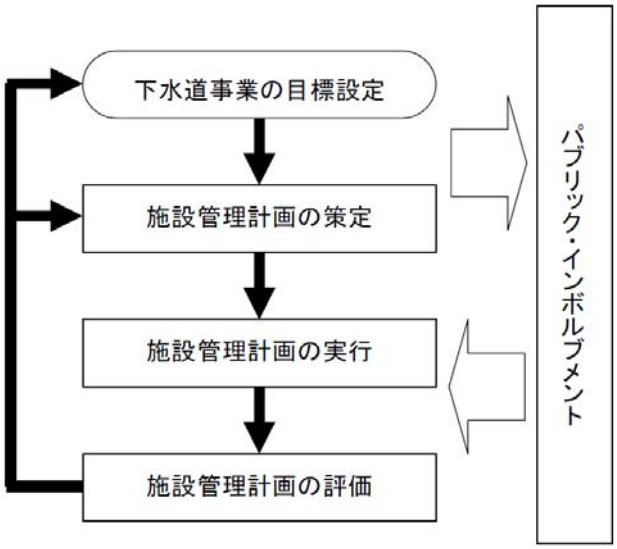


図 2-1　ストックマネジメントの流れ（「基本的な考え方」Ｐ.10、図 3-1-1 より）

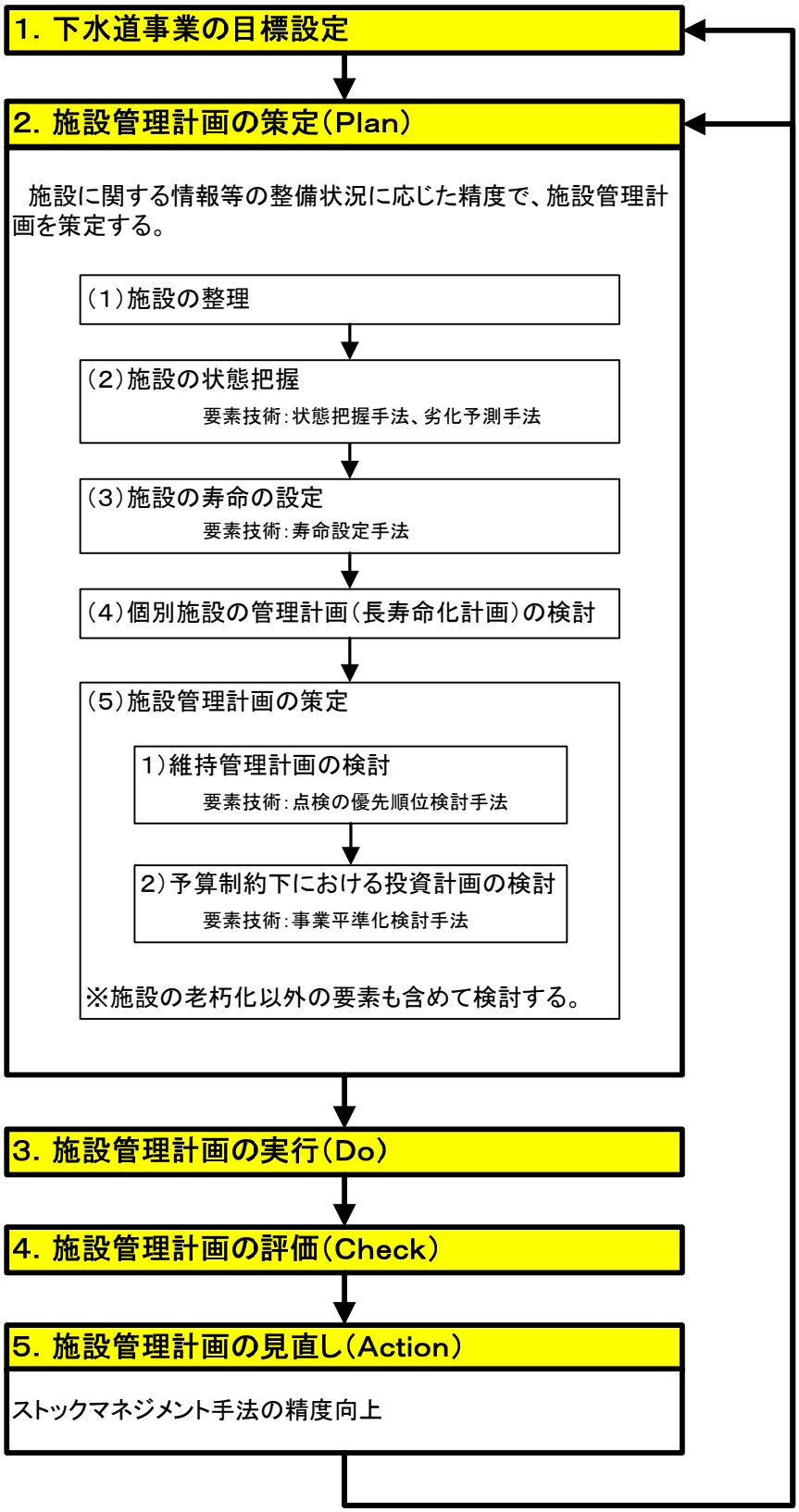
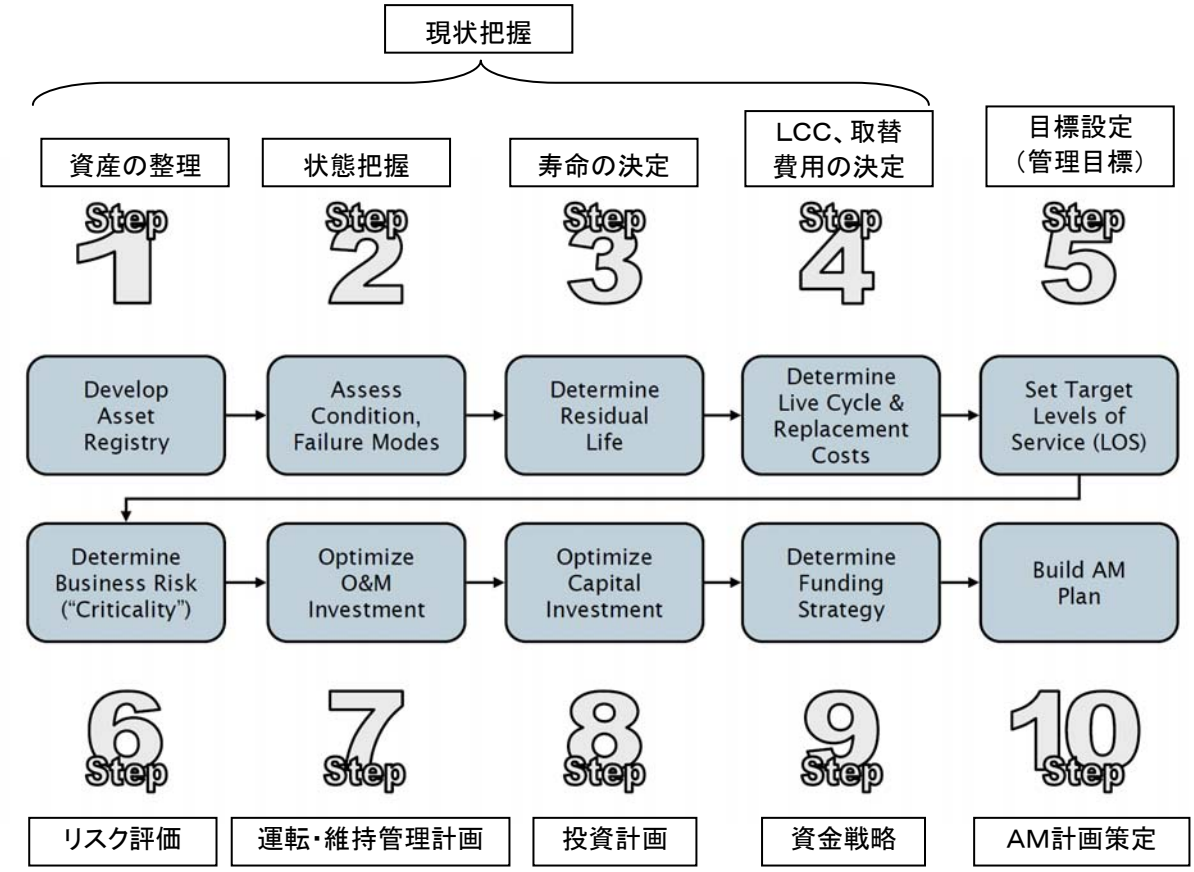


図 2-2　下水道事業におけるストックマネジメントの実施フロー案

（参考：海外の下水道事業におけるアセットマネジメントの実施フローの例）

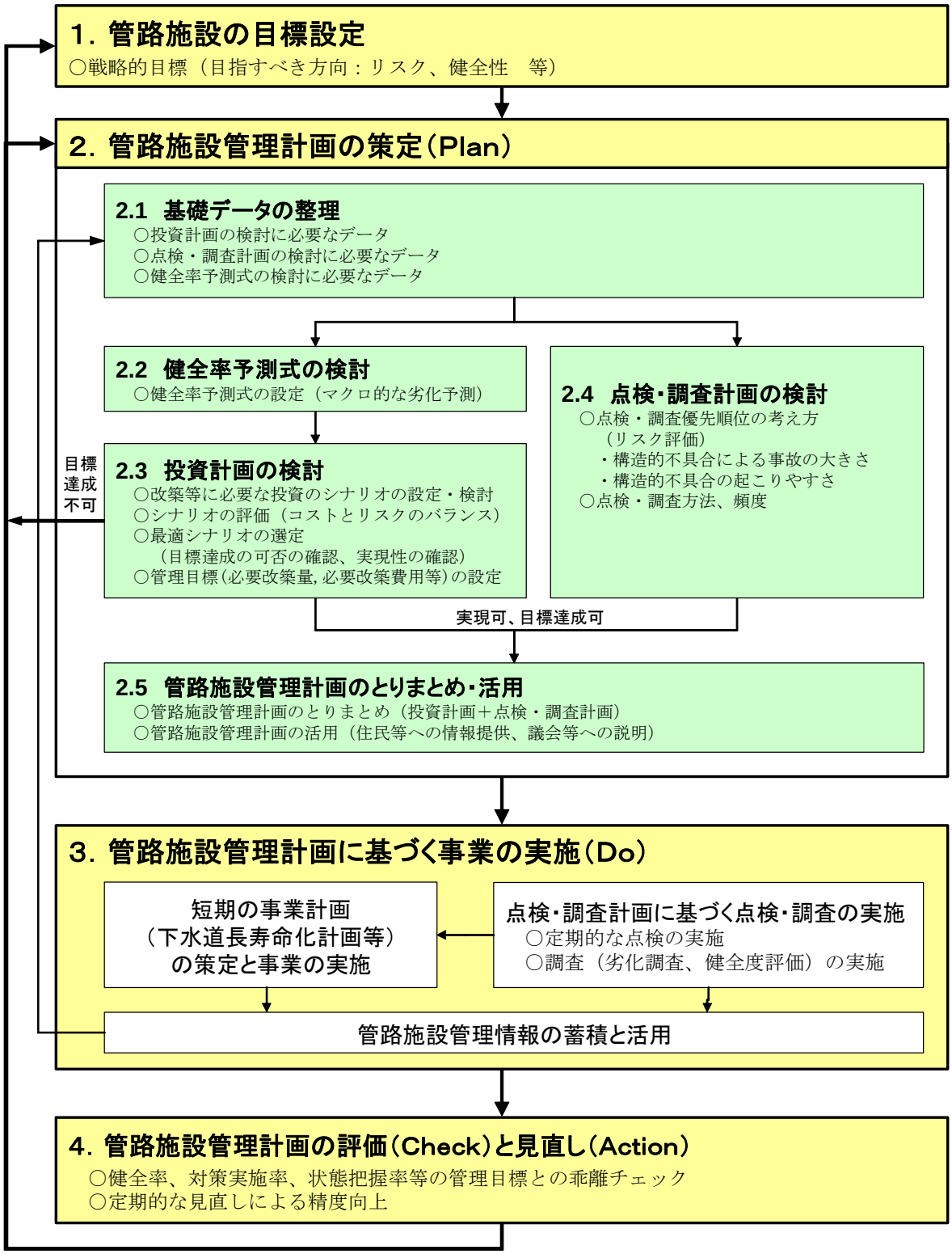
本検討委員会で下水道事業におけるストックマネジメントの実施フローの参考とした、ＵＳＥＰＡで推奨しているアセットマネジメントの基本プロセスは以下の１０のステップで構成されている。



図－１　ＥＰＡで推奨しているアセットマネジメント基本プロセス

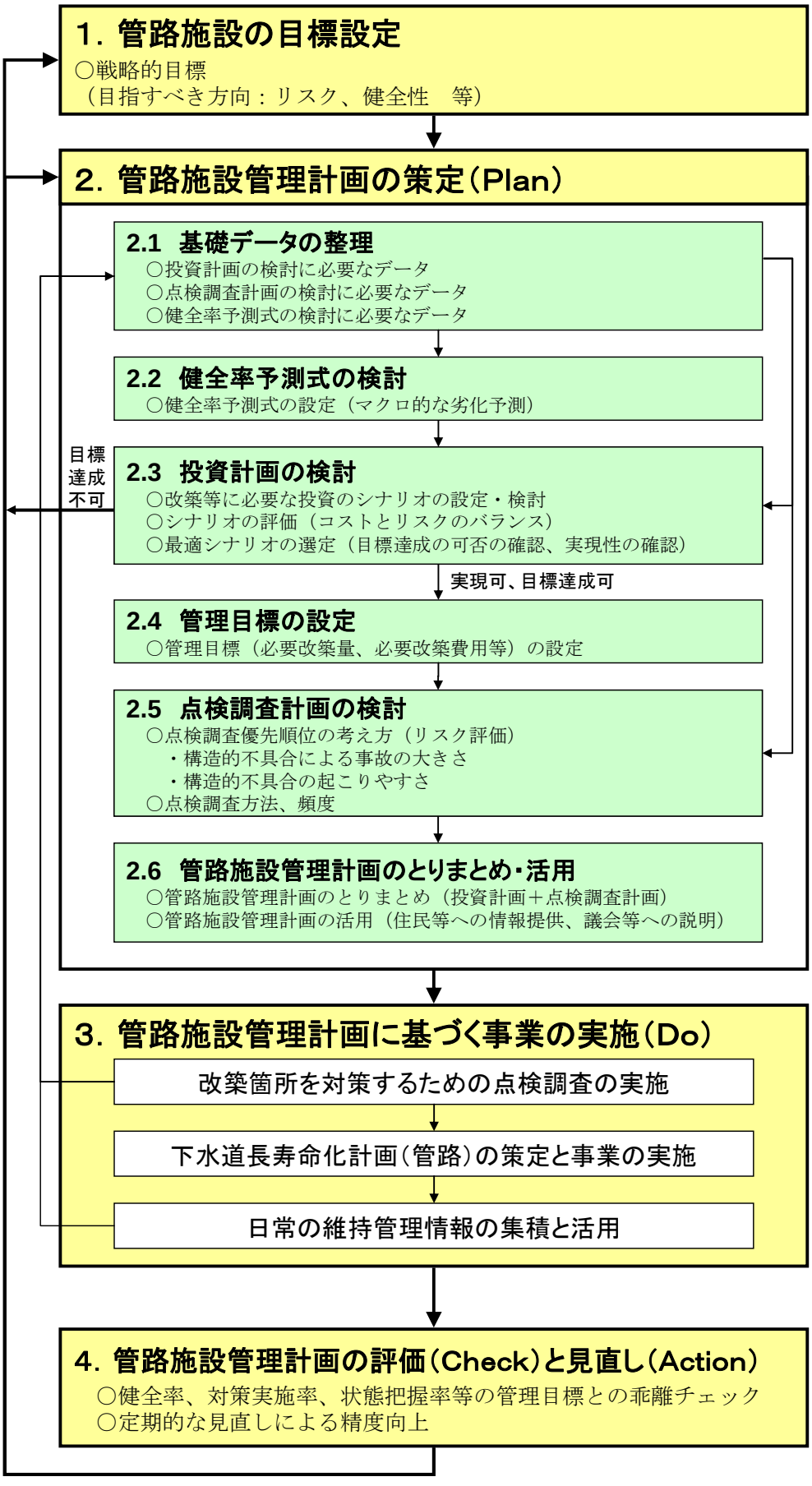
（ＵＳＥＰＡワークショップ資料より）

3.　管路施設のストックマネジメント実施フロー

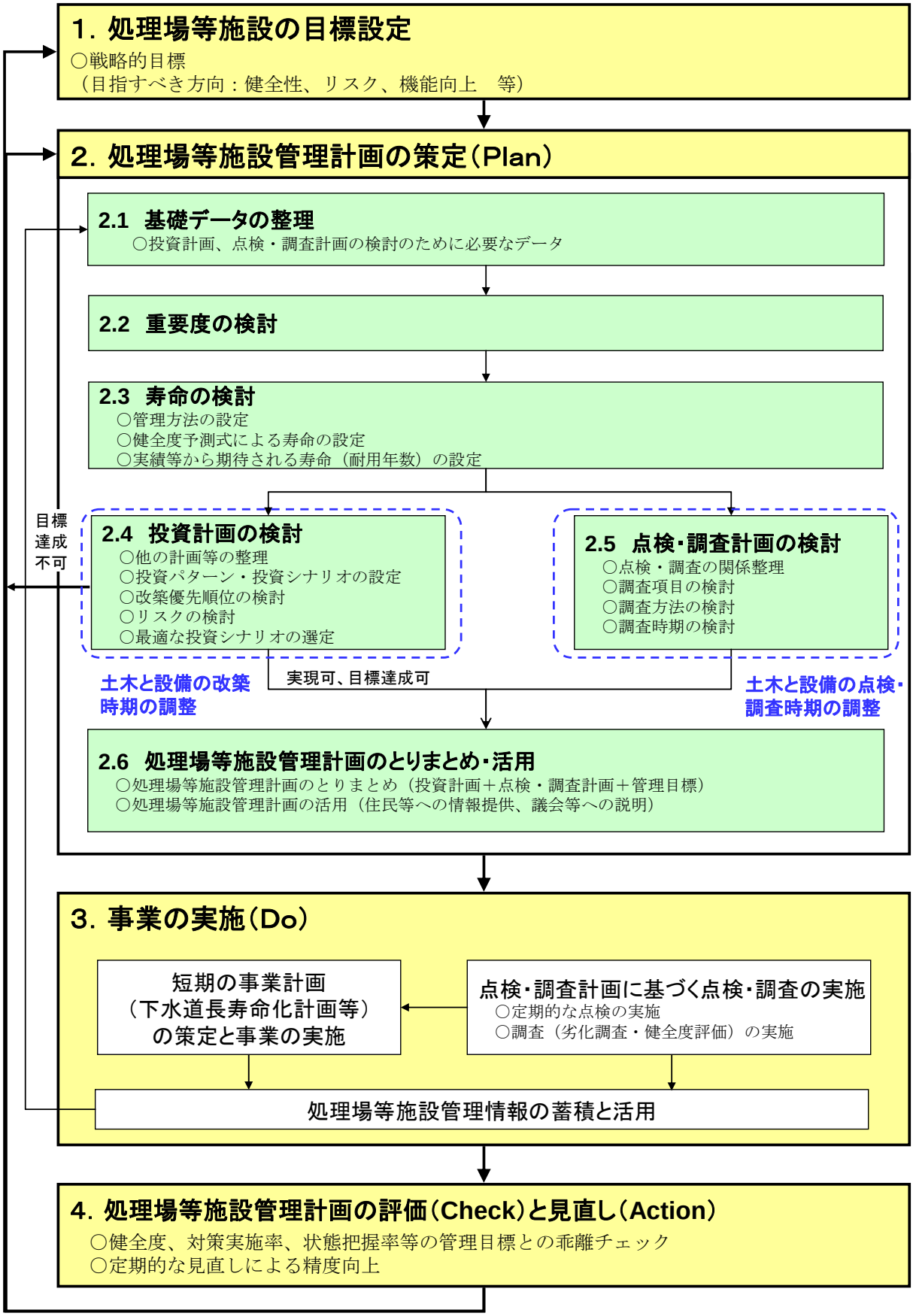


注：上記は委員会で提示したフローを、供用開始後間もない都市においても管路施設のストックマネジメントができるよう修正した事務局案である。次頁は委員会で提示したフローで、既に老朽化した管路が蓄積している場合に適用が容易なストックマネジメントのフローである。

（第２回委員会で審議した管路施設のストックマネジメント実施フロー）



4.　処理場等施設のストックマネジメント実施フロー



主な検討課題（案）

5. 要素技術の検討・整理

（1）施設の整理

・ 蓄積すべき情報は何か

（2）施設の状態把握・寿命設定

・ どのような方法により施設の状態を把握するか
・ どのような方法で劣化予測・寿命設定を行うのか
・ 対策によりどの程度健全度が回復するか（どの程度寿命が延びるか)）
・ いつまで長寿命化できるか（長寿命化の限界期間をどのように設定するか)
・ 日常点検、定期点検をどのように活用するか
・ 点検調査の優先順位をどのような方法により決定するのか(特に、不可視であり、点検調査に時間を要する管きょについて)

（3）施設管理計画の策定

・ 機能、費用、リスクをどのようにバランスさせるのか
・ 予算制約下において、対策の優先順位（事業の平準化）はどのような方法により決定するのか

6. 目標設定の考え方

・ 目標として設定すべき項目は何か
・ その目標をストックマネジメントにどう反映させるのか

7. 計画策定のための実務的な作業手順（実施フロー案）

・ 資料４に示した実施フロー案が適切か

8. 情報等の整備状況に応じたストックマネジメント手法のレベルアップ（精度向上）

・ 劣化予測に必要な情報等の蓄積が不十分な場合に、どのような方法でストックマネジメントを実施するか
・ 先行している長寿命化計画から、どのようにストックマネジメントへ展開するか

9. その他

・ 老朽化以外の改築をストックマネジメントにどう反映するか
・ ストックマネジメントを下水道計画にどのように位置づけるか